



愛知県議会議員
鈴木 正



幸田町長
大須賀 一誠

新年あけましておめでとございます。町民の皆さまには、輝かしい新春を迎えられたことお喜び申し上げます。

昨年、念願であった町北部の拠点となるJR東海道線相見駅が開業し、駅周辺は住宅建設や店舗の進出が急増して新しい街として活気づいています。町の中心部では、岩堀、六栗地区の土地区画整理事業により、住宅需要に対応するための住環境整備が進められています。また、幸田町の表玄関である幸田駅前の再開発も進み、昨年は住民の集いの場となる幸田駅前銀座がオープンしました。三ヶ根駅周辺は歴史・文化・観光の拠点として、町内外の人が訪れる賑わいのあるまちになるよう、それぞれに駅を中心としたコンパクトシティとしてバランスの良い発展を目指しています。また、国道23号蒲郡バイパス西部区間（芦谷IC、蒲郡IC）の開通を間近に控え、交通の要衝として利便性が向上するとともに産業の発展に繋がることを期待されます。

町の防災に関しては、「安全で安心な住

環境を整備してまいります。また、幸田町の表玄関である幸田駅前の再開発も進み、昨年は住民の集いの場となる幸田駅前銀座がオープンしました。三ヶ根駅周辺は歴史・文化・観光の拠点として、町内外の人が訪れる賑わいのあるまちになるよう、それぞれに駅を中心としたコンパクトシティとしてバランスの良い発展を目指しています。また、国道23号蒲郡バイパス西部区間（芦谷IC、蒲郡IC）の開通を間近に控え、交通の要衝として利便性が向上するとともに産業の発展に繋がることを期待されます。

町民の皆さまには、輝かしい新春を迎えられたことお喜び申し上げます。

みよいまち」の実現に向け、防災行政無線のデジタル化など、さまざまな施策を講じていきます。昨年は、東日本大震災の教訓を生かし、大規模な自然災害において被災地以外の自治体との広域的な相互支援を目的に、災害時相互応援協定を結びました。町内の企業、福祉施設などと物資の調達や施設を避難所として使用できるように今後も協定を結んでいくとともに、町民一人ひとりの防災意識を高めるため、防災シンポジウムの開催や、小中学校での防災学習を推進し、地域、企業と連携し、町全体で減災・防災に努めていきます。

また、利便性の高い質のよいサービスを提供するため、一カ所でさまざまな行政手続きが完了できるワンストップサービス（総合窓口化）を実施します。これにより、スピーディーでスムーズな行政サービスの提供を図ります。

経済においては、東日本大震災やタイの洪水による大打撃を乗り越え、立ち直りかけたところに近隣諸国との摩擦が発生し、

の行財政運営も非常に厳しい状況にあります。政権が変わっても暫くは政治の混乱の状況は続くと思われませんが、今必要なことは政治に民意が反映されることであり、県ならびに市町村は、雇用そして所得が回復しない限り財政の好転は望めません。グローバル化の進行による国際競争力が私たちの日常生活にも大きな影響を及ぼすことになり、

昨年を引き続き、国民の安全・安心のた

引き続き経済環境が停滞しています。町内の企業への影響も避けられず、町財政も厳しい状況が続いています。安定した行政サービスを継続していくため、事業仕分けなどの行財政の見直しの実施のほか、町の財政を支える地元の産業の育成にも力を注ぎます。また、新たな産業、企業の誘致にも積極的に取り組み、雇用の場の確保にも努めていきます。

子育て世代を支援することも重要な課題です。今年、相見地区の人口増に対応するため、わした保育園の増築を行うとともに、安心して子育てができるように多方面において環境整備をしていきます。

最後に、町民の皆さまのご意見を伺いながら、「愛する幸田町を幸せなまちにするために」をモットーに全力で取り組んでまいります。本年が災害のない明るい年であり、また、皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。さつといたします。

めに、大きな変動に立ち向かっており、直面する混乱を脱することにより、その先にも未来が拓けてまいります。

愛知県財政においても、県民の生活にしっかりと目を向け、引き続き積極的な行財政の改善に全力を傾注してまいります。

本年が町民の皆さまにとりましても幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。さつといたします。